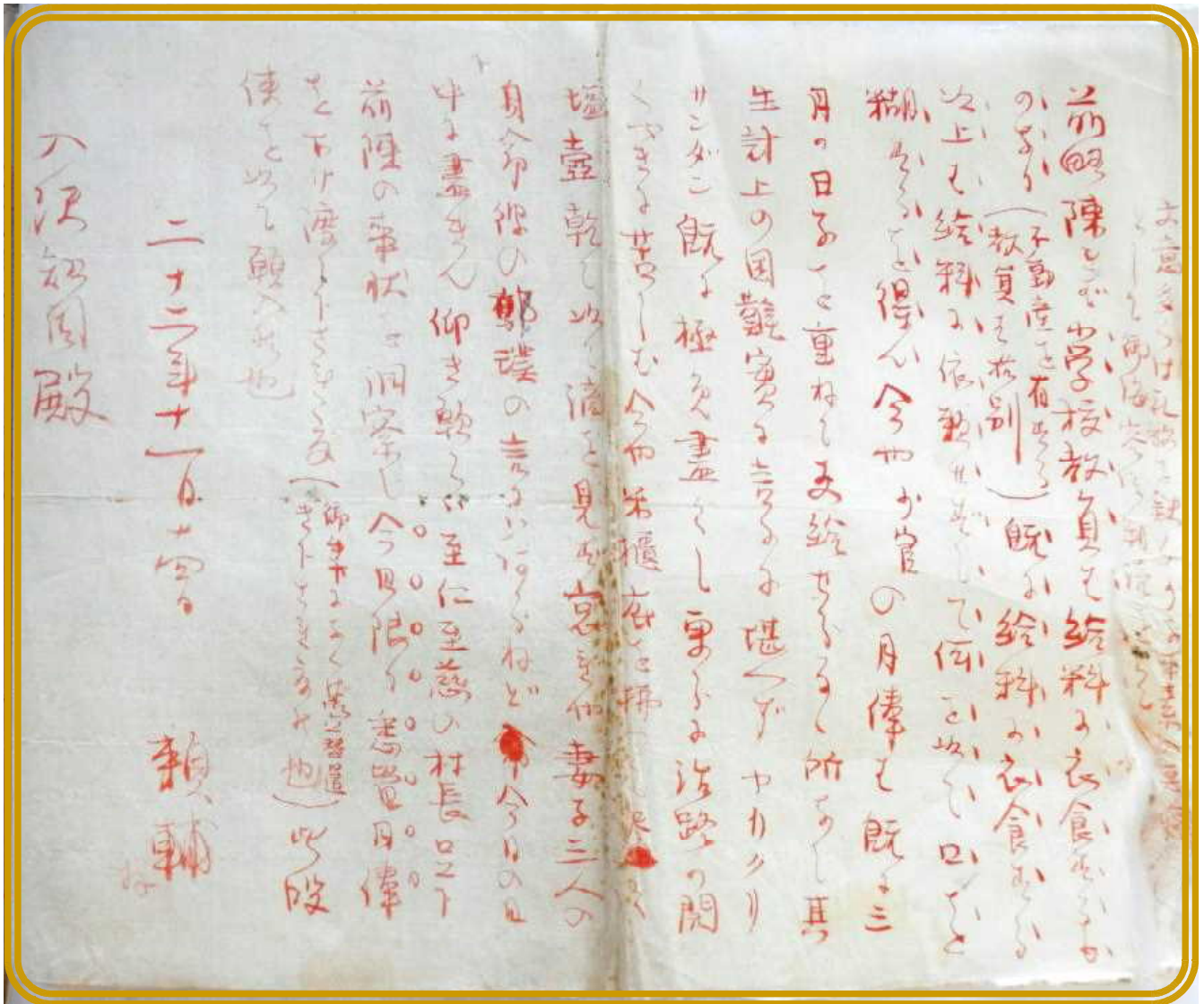


寒川文書館だより

Vol. 14



給料運配をめぐる沼田頼輔の書状（明治22年）

資料紹介「頼輔先生の手紙」	2
審議会委員を委嘱／寒川の先人たち	3
資料保存ワークショップを開催	4
広がる図書館との共同事業	5
企画展「さむかわの道」	6
文書館 最近のできごと	7

第14号
2013.9.30
寒川文書館

<資料紹介> 頼輔先生の手紙 —お給料をください—

(当館蔵／佐藤稔氏旧蔵)

今年寒川文書館に寄贈された、佐藤稔氏旧蔵の寒川村役場文書の簿冊に綴じられていた史料のうちの1点である。全文を朱で書かれた明治22年(1888)11月14日付のこの手紙では、現在の一之宮小学校の前身にあたる一之宮学校の訓導兼校長である「頼輔」先生が、寒川村長の入沢知周に月俸3か月分の支払いを求めている。

※
実はこの頼輔校長先生、フルネームを沼田頼輔といい、のちには『日本紋章学』を著し、家紋をはじめとする紋章研究の第一人者とされる人物である。愛甲郡宮ヶ瀬村(現清川村)の出身で、神奈川県師範学校を卒業後、明治21年から一之宮学校の訓導兼校長を務めた。この間、在職のまま帝国大学理科大学(現東京大学理学部)簡易講習科第二部で学んでおり、茅ヶ崎小学校訓導兼校長、神奈川県小学校訓導兼校長を経て岡山県師範学校教諭に転じた。この後も各地で教鞭をとったが、明治44年に教職を辞して土佐藩史編纂事業に携わった。このとき山内豊景侯爵から山内家がなぜ桐の家紋を用いているのか問われて即答出来なかったことがきっかけで紋章の研究に専心したという。他方、神奈川県下に組織された郷土史研究団体である相武史談会の会長を務めたことや、関東大震災の液状化現象で茅ヶ崎に出現した旧相模川橋脚を鎌倉時代のもものと推定、国史跡化に尽力したことで知られる。

時にこの手紙の書かれた明治22年は、現在の寒川町の前身となる寒川村ができた年である。4月に町村制が公布され江戸時代以来の11か村が合併して新たな寒川村が誕生したが、その運営は必ずしも円滑にはスタートしなかったと言わざるを得

ない。第一回の村議会が行われ、議員の互選により入沢知周が村長に選ばれたのが7月2日、明治22年度の寒川村歳入出予算が議決されたのが9月30日、現在のさむかわ保育園の地に新設された村役場の完成は晩秋ないし初冬までずれ込んだようである。月俸が3か月支払われていないというのはこうした事態と関連していると見て良いだろう。大学者沼田頼輔の若き日を物語ると共に、未だ揺籃期にあった寒川村の実情をも伝える史料である。ちなみに「一之宮小学校沿革誌」によれば、頼輔先生の月俸は10円、この年の寒川村の「歳入出予算表」によれば一之宮学校費は283.097円、寒川村の歳出(経常費)の総額は1,902.588円となっている。

余談ながら、当時の知識人とはそうしたものなのかもしれないが、未払いの月俸を請求するという極めて世俗的な内容でありながら、何とも格調高い文章にある種のおかしみを覚えるのは筆者だけであろうか。

(渡辺真治)

※当時は山本姓。のち妻の実家を継ぎ沼田姓となる。



沼田頼輔

文書館運営審議会が改選

平成25年7月3日、寒川文書館運営審議会委員の委嘱状交付式ならびに今年度第1回（通算第13回）会議が開かれました。

この審議会は、町民や専門家の意見を反映し、より良い文書館運営を行うため、年間事業計画等を審議したり、町からの諮問に答申したりする機関です。任期は2年。町民の公募による委員2名のほか、町議会議員、学校長、町史編集委員、学識経験者、資料所蔵者各1名の合計7名で構成されています。公募委員は4月上旬から5月上旬にかけて募集を行い、公募委員選考委員会に諮ったうえで決定しました。

当日は町長に代わって副町長が各委員に委嘱状を手渡しました。次いで、正副会長の互選に移り、会長に木村勇氏、副会長に小川千代子氏がそれぞれ再任されました。

会議では、平成24年度事業結果の報告と25年度事業計画の審議が行われ、活発な質疑を経て、いずれも了承されました。

前任期の顔ぶれと比べると4人が入れ替わりました。新たな視点で館運営にアドバイスをいただけるよう期待したいと思います。



副町長より委嘱状が手渡される

寒川文書館運営審議会委員名簿

選出区分	氏名	備考
町議会の議員	喜多村 出	
町立小中学校長	加藤 琢也	寒川中学校校長
寒川町史編集委員会委員	木村 勇	
学識経験を有する者	小川千代子	藤女子大学教授
ボランティア又は資料所蔵者	野村 尚広	寒川神社権祢宜
公募による町民	緒川 直人	
	唐木 良枝	

敬称略、任期：平成25年6月29日～平成27年6月28日

シリーズ 寒川の先人たち

第10回：初めての女性町議会議員—藤本菊子—

戦前には極めて制限されていた女性の政治参加は、戦後ようやく確立されました。昭和22年(1947)4月の第1回統一地方選挙では、全国で771名の市区町村会議員が誕生しましたが、そのうちの一人が寒川町にいました。その名を藤本菊子といいます。

大正2年(1913)、宮山の医師・皆川弘毅の長女として生まれ、当時35歳でした。議会では民生委員会と教育委員会に所属、生活改善特別委員会委員にも選任されましたが、本会議の議事録を見る限りほとんど発言は見当たらないまま、昭和25年3月、転居のため任期途中で辞職しました。28名の議員中、唯一の大正生まれで最年少。居並ぶ年長の男性議員の中であって、女性ならではの視点が町政に反映されることはあまりなかったようです。

(高木秀彰)



資料保存ワークショップ

「水損資料等の応急措置を学ぶ」

平成25年9月8日、町民センター展示室において、資料保存ワークショップを開催しました。当日の参加者は35名。水に濡れた資料の取扱いや、襖の下貼りのはがし方の手法を学んでいただきました。資料を災害から守るという意識を、関係者のみならず、町民の皆さんにも身につけていただくことを目的としたもので、共催は神奈川歴史資料保全ネットワーク、後援は神奈川地域史研究会。他に神奈川大学日本常民文化研究所と入澤章様にご協力をいただきました。

襖の下貼り

講師は神奈川大学教授田上繁さん。入澤章さんからご提供いただいた襖を薬品を用いて下貼りを一枚一枚はがし、洗浄する手順について説明していただき、参加者にも少しずつ作業をしてもらいました。襖から現れた資料は、大半が明治末から大正期のものでした。入澤家は関東大震災直後に母屋を建てかえたので、その時点で家にあった和紙を応急的に利用したことが窺えます。



下貼りを一枚一枚はがす

水損資料

講師の東京大学資料編纂所山口悟史さんより、水に浸かってしまった冊子を手当てする手法について教えていただきました。練習材料として、予め水に浸して泥をこすりつけておいた冊子を用意しておきました。これに市販のキッチンペーパーを挟みこんで吸湿したり、泥を洗い落としたりする作業を参加者一人ひとり体験してもらい、そのコツを伝授していただきました。



キッチンペーパーを挟み込んで吸湿



洗浄して糊と薬品を落とす



水で泥を落とす

広がる図書館との共同事業

寒川文書館と寒川総合図書館は、これまでも蔵書検索システムの共用、映像上映会の共催など、複合館の特性を活かした事業を進めてきましたが、今年さらにその幅を広げることができました。その概要をご紹介します。

図書館・文書館体験ツアー

町内の小中学生を対象に、図書館と文書館のバックヤードを見学したり、実務を体験したりするイベント。平成25年1月19日に初めて実施し、次いで夏休み企画として同年8月2日と8月8日にも行い、延べ25人が参加しました。文書館では館の役割を説明したあと、小学校の用地買収や校舎建設に関する公文書を見せたり、マイクロフィルムの巻き替え作業を体験してもらったりしました。



雑誌コーナーミニ展示

図書館1階の雑誌用書架の一部は、特定のテーマの書籍を1か月ほど展示するスペースになりました。文書館ではここを借り、平成25年5月9日からの1か月は「記録資料を伝える残す」というテーマで、国際アーカイブズの日に関連企画として、図書館所蔵のアーカイブズや資料保存の本を並べました。9月1日からは、企画展「関東大震災と寒川」と連動して、関東大震災の書籍を展示しています。



寒川古文書愛読会が発足

平成25年8月、文書館の古文書講座の受講者を中心に、古文書を勉強するサークルが誕生しました。

ある程度くずし字に慣れてきた人たちが、さらに踏み込んで学んでみようと思成したもので、毎月第3水曜日、11名の皆さんが図書館の会議室で史料を輪読しています。

まずチャレンジしているのは明和9年(1772)の「五人組御改帳」(田端・村田一美家文書)。毎回報告者を決め、くずし字の読みや現代語訳を発表し合うという方法で進めています。

将来的には活動成果を町史研究などの刊行物で発表することも視野に入れていきます。



〔連絡先〕 会長 田中隆平 0467-75-5889

副会長 中門吉松

naka3kado3yo@jcom.home.ne.jp

<第14回企画展>

さむかわの道

人の移動や物資の輸送など、私たちの生活は道路と密接に関わってきました。

今回の展示では、古代の東海道から現代のさがみ縦貫道路(圏央道)まで、寒川の人々と道路の関わりについて、さまざまな角度からたくさんの資料を用いてご紹介しました。

I 古代の道

(会期：平成25年3月9日～8月31日)

古代の律令国家は、全国に七つの官道を整備しました。その一つである東海道が、寒川町内を通過していた可能性に触れました。

II 中世の道

『曾我物語』には、曾我兄弟が源頼朝の下へ向かう場面で「田村の大道」という道が登場します。この道が寒川町内を通過していた可能性に言及しました。

II 江戸時代の道

田村通り大山道

大山参詣や江の島や鎌倉を回る人々で賑わう様子や、荻野山中藩の参勤交代に利用された事例、大山参詣の代表的な風景として絵画に取り上げられた田村の渡しについて紹介しました。

中原道

中原道は、江戸から御殿(将軍の休泊所)がある平塚の中原へ至る道で、物資輸送にも利用された重要な道でした。この道は、一之宮から田村の渡しで相模川を渡りますが、町内を通過する2つのルートについて取り上げました。

一之宮への道

寒川町内とその周辺にある、「一之宮」と記された数多くの道標が数多くあります。「一之宮」は寒川町内の地名として、唯一道標に記されています。これらの道標とその分布を地図や写真で示しました。



中洲稻荷神社の庚申塔(宮山)

IV 近現代の道

明治時代になると道路の管理は行政が行うようになりました。寒川の道路行政の変遷や、大きく変わった景観を、当時の行政文書や写真で紹介しました。

中原道と長屋門のある屋敷(大蔵)(茅ヶ崎市 町田悦子さん蔵) ▶



V さがみ縦貫道路

さがみ縦貫道路は、茅ヶ崎市西久保から相模原市緑区川尻を結ぶ自動車専用道路です。

さがみ縦貫道路の概要と、平成25年4月14日供用開始の寒川南 IC と寒川北 IC について、パネルや模型で紹介しました。

寒川北ICの模型(国土交通省より借用) ▶



文書館 最近のできごと

■古文書講座 5月25日(土)～10月26日(土) 全6回



古文書講座を今年も開講しました。おかげさまで毎回定員を上回る申込みがあり、皆さんの関心の高さが窺えます。今回は開催中だった企画展「さむかわの道」の関連事業と位置づけ、江戸時代の交通史をテーマに設定しました。通行手形、伊勢参詣日記、高野聖の檀廻日記、助郷をめぐる訴訟など、バラエティーに富んだ史料を用意し、文字の読み方だけでなく、歴史的背景も交えて解説しました。

■中央大学・東京大学視察見学 6月30日(日)



中央大学と東京大学大学院学際情報学府の学生23名が視察研修のため来館しました。いずれも当館運営審議会委員の小川千代子氏が講師を務める授業の一環として設定されたものです。当日はまず会議室で館の設立経過や運営状況について説明したあと、館内を見学してもらいました。後日送っていただいたレポートを拝見したところ、館の現状と課題について幅広い視点で見ていただいていたことがわかり、今後の参考になりました。

■アーカイブズ実習 7月23日(火)～27日(土)・8月28日(水)～9月1日(日)



学習院大学大学院アーカイブズ学専攻の実習生1名を2週間受け入れました。4回目の受け入れとなる今年は、ミニ展示の企画と実施、現用文書の管理換え、非現用文書の整理、講座の運営、図書や写真の整理など、文書館のさまざまな業務を体験してもらうことができました。さらに海老名市歴史資料収蔵館や寒川神社方徳資料館など、近隣の資料保存施設も見学させていただき、幅の広い実習となりました。

■東京都公文書館・特別区協議会共催セミナー 9月4日(水)



東京都公文書館と公益財団法人特別区協議会の共催で、東京都内の市区町村の現用文書管理担当職員を対象とした研修会に講師として招かれました。「市区町村公文書館と地域住民－『アーカイブズのある幸せ』とは－」と題し、公文書館の定義や全国における設置状況、寒川文書館の設置経緯や日常の仕事などについて紹介しました。とりわけ、公文書館の持っている情報が地域住民の生活をいかに豊かにするかという側面を強調する内容としました。

今後の事業予定

■開催中の展示

平成25年9月1日(日)から平成26年2月28日(金)まで、文書館展示コーナーにおいて、企画展「関東大震災と寒川」を開催中です。関東大震災が起きて90年の節目に合わせ、寒川の被害状況や復興の様子などについて多数のパネルを用いて紹介しています。特に新発見史料である当時の助役・佐藤峯太郎の残した文書から、これまで知られていなかった震災直後の対応がわかります。ぜひ足をお運びください。



■平成25年度後半の事業予定

平成25年度後半は次の事業を実施予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

- 懐かし映像上映会（11月3日）
- 中世史講座（11月23日より全4回。）
- 町史講座「関東大震災と神奈川県」（11月24日）
- ミニ展示「午年のできごと」（1月上旬より）
- 第16回企画展（3月上旬より）

編集後記

「寒川文書館だより」第14号をお届けします。東日本大震災以降、防災対策の必要性が問われています。公文書館においては、日頃からいかに資料を守るか、被災資料をいかに救い出すか、その体制作りを考えなければなりません。今回初めておこなった資料保存ワークショップも、関東大震災の企画展も、こうした動機からまず第一歩を踏み出したものです。今後とも、利用者や専門家など多くの皆さんと一緒に、資料を守る活動の輪を広げていくことができればと考えています。

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日（国民の祝日にあたる場合は開館）
年末年始（12月29日～1月3日）
特別整理日（決まり次第お知らせします）

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分
※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第14号

平成25年9月30日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp